

学習指導案 国語科 略案

8月〇日 (〇) 〇校時
 指導学級 1年 〇組 〇名
 指導教室 1年〇組教室
 授業者 〇〇 〇〇

1. 題材名 オオカミを見る目 (説明的な文章)

2. 校内研究との関連

(1) 本時の目標：相手に分かりやすく伝えるための言葉遣いや文章のつくりを見つけよう。
 【思考力、判断力、表現力等】

(2) 生徒の実態と手立て

	学級全体	配慮を要する生徒
生徒の実態	<p>説明的な文章を学習することについて、48%の生徒は得意であると答えている。したがって、説明的な文章という題材に対する興味・関心はあると考えられる。また、「オオカミ」という題材は生徒が童話などで幼いころから触れきた動物であり、オオカミは「怖い動物」や「かっこいい動物」などのイメージがあった。</p> <p>学級全体として積極的な発言は多くない。しかし、振り返りを書く場面では、自分の考えを表現することはできる。</p> <p>「自分の考えが正しく相手に伝わるように、話をしたり、文章に書いたりしたいか」という質問では、84%の生徒が自分の考えを表現することに前向きな姿勢であることが分かる。また、「グループでの意見交換の時間は必要か」という質問では、88%の生徒が「必要である」と回答していた。そのことから、本時では生徒が自分の考えを他者に伝える場を設定することで、意欲的に学習に取り組むと考えた。</p>	<p>・ A 【実態】 文字を書くことが苦手なので、ノートを書かない時がある。音読や質問に答えることには積極的である。 【支援】 板書を少なくし、書く手間を減らすことで、学習活動に参加しやすくする。</p> <p>・ B 【実態】 一斉での指示が通りにくい。学習活動の内容を理解していないことが多い。 【支援】 学習の流れを提示することで、学習活動を把握しやすくする。</p> <p>A・B共にスモールステップの課題を設定し、適宜声掛けしていく。</p>
視点と手立て	<p>【視点1】ユニバーサルデザインを授業の中に取り入れ、生徒が主体的に取り組むための授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の展開では、学習活動を短く区切り、生徒の学習への意欲を継続させる。(スモールステップ化) ・ 学習の流れの提示をして、学習活動の見通しを持たせる。(時間の構造化) <p>【視点2】学習に困り感を抱いている生徒への個別支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グループ活動の場を設定することで、他の生徒の考えを聴き合い、考えの手助けとする。(共有化) ・ 学習に取り掛かれていない場合、どこが分からないかを一緒に確認する。 	

3. 単元の指導と評価計画（総時数6時間）

(1) オオカミを見る目・・・・・・・・・・・・・・・・・・6時間

時間	学習活動	評価規準（評価方法） ・指導に生かす評価 ○記録に残す評価		
		【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
1	全文を通読し、語句の意味を確認する。	・知（ノート）		・態（観察）
2	文章の構成を捉え、二つの問いを押さえる。		・思（ノート）	・態（観察）
3 4	二つの問いの答えを表にまとめる。		・思（ワークシート）	・態（観察、ワークシート）
5	筆者の考えを読み取る。	○知（ワークシート）	・思（ワークシート）	・態（観察）
6 (本時)	文章の書き方の工夫を見つける。		○思（ワークシート）	・態（観察、ワークシート）

4. 本時の評価

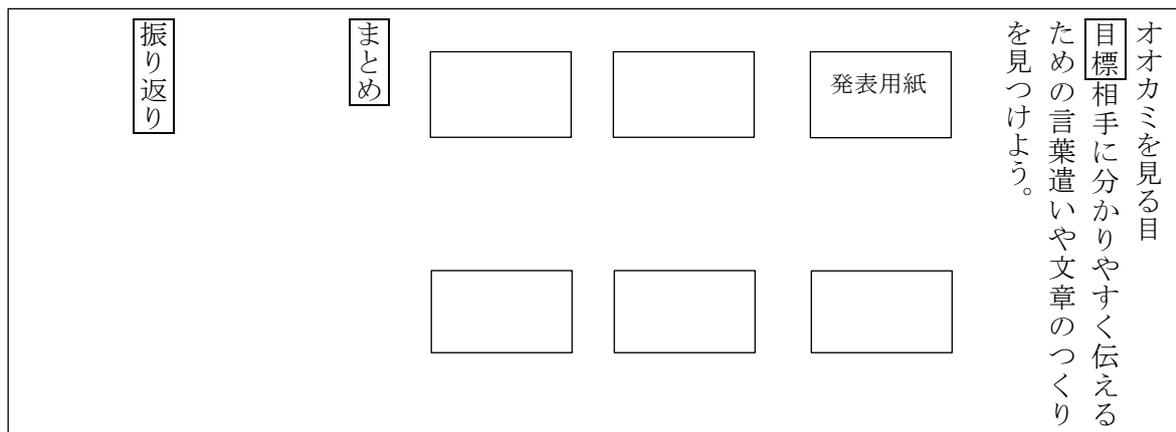
評価の観点	Aと判断する状況	Bと判断する状況	Cと判断する状況への手立て
思考・判断・表現	具体的に活用できる場面を想定し、相手に分かりやすく伝えるための言葉遣いや文章の作りを見つけることができる。	相手に分かりやすく伝えるための言葉遣いや文章の作りを見つけることができる。	相手に分かりやすく伝えるための言葉遣いを本文から書き抜き、ワークシートの振り返りに書けるように助言する。

5. 指導過程

段階	学習活動	・指導上の留意点・視点に関わる手立て【視点】 ※配慮を要する生徒への支援等	・評価 (方法)
導入 5分	1 本時の学習の流れを確認する。 2 本時の目標を把握する。 相手に分かりやすく伝えるための言葉遣いや文章の作りを見つけよう。	・学習活動の流れを提示し、活動の順番や所要時間を確認することで、学習の見通しを持たせるようにする。 【視点1：時間の構造化】 ・本時の目標を音読させて、ねらいを明確にする。	
展開 30分	3 本文中から相手に分かりやすく伝えるための言葉遣いや文章の作りを探し、教科書に線を引く。付箋にも書き抜く。	・各学習活動を5～10分に設定する。 【視点1：スモールステップ化】 ・教科書の本文から、1～2箇所程度抜き出すように指示する。	・思（付箋、教科書）

	<p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まず」「このように」 (接続する語句・指示する語句) ・「皆さんは…いますか。」 (読み手に問いかける) <p>4 抜き出した箇所をグループ内で共有する。</p> <p>5 付箋を基にして、文章の書き方の工夫がどのようなものかをグループで考える。</p> <p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者からの問いかけが多い。 ・「問い」を提示してから「答え」を述べて分かりやすい。 ・段落の最初の語句によって、段落の内容が分かる。 <p>6 グループで考えたことを発表する。</p>	<p>〈支援〉筆者が書いた文章の中で、分かりやすかった言葉に線を引かせる。 【視点2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・抜き出したところを共有することで、考えを広げさせる。 ・グループ活動の場を設定することで、他の生徒の考えを聴き合い、考えの手助けとする。【視点2：共有化】 ・グループ用のワークシート①に付箋を貼り出し合わせる。進行役の生徒が活動の中心となるように指示する。本文中のどこから抜き出したのかを説明させながら貼るように伝える。 〈支援〉線を引いた言葉が分かりやすいと感じた理由を他の生徒に伝えられるように助言する。【視点2】 ・黒板に貼り出せるように、各グループで発表用紙にまとめておかせる。 ・発表用紙にまとめたことを発表させる。電子黒板に画像を映しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思 (ワークシート)
<p>まとめ 15分</p>	<p>7 書き方の工夫について確認する。</p> <p>8 振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで出たものから共通する項目を取り上げ、書き方の工夫の効果について説明する。 〈支援〉言葉を繰り返し使うことで、読み手にキーワードが伝わりやすい書き方になっていたことに気づかせる。 【視点2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・知 (ワークシート)

6 板書計画



ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

<参加>

- 1 時間の構造化 (活動の順番や所要時間、終了時刻の事前提示)
- 2 場の構造化 (整理整頓、活動や動線を考慮した教材の配置)
- 3 刺激量の調整 (光や音、室温への配慮、学習のねらいや活動に応じた教材の提示)
- 4 ルールの明確化 (発言や聞く態度、ノートの書き方等のルールの明確化と共有)
- 5 クラス内の理解促進 (間違いや分からないことを受容し、お互いを認め合う関係づくり)

<理解>

- 1 焦点化 (学習のねらいや活動を絞り込む)
- 2 展開の構造化 (授業のスタイルのパターン化)
- 3 スモールステップ化 (課題の難易度の調整(子どもの実態に応じて活用))
- 4 視覚化 (授業における情報を見えるようにする)
- 5 身体の活用(動作化・作業化) (話す、書く、操作する、作る等の活動をバランス良く設定)
- 6 共有化 (話し合う、伝え合う、協力し合う場面の設定)